

# RNN速報

## AMDA「ロヒンギャ難民」医療支援のお願い

RNN事務局長 黒住 宗道

各位

この度は、1月30日の定例会議で協議した結果、AMDAによる1年間限定のロヒンギャ難民医療支援募金の呼びかけをさせていただきます。RNNでは既にBNN(仏教NGOネットワーク)を通じたロヒンギャ難民緊急支援のお願いを「RNN速報」として11月27日にメンバー各位にお送りし、12月27日をもって〆切とさせていただきますでしたが、今回、定例会議に出席した竹谷AMDA参与より、昨年8月以来バングラデシュに流出している難民の劣悪な環境下での悲惨な現状やAMDAバングラデシュ支部とバングラデシュ友好病院の合同チームを中心とした医療支援の活動報告を受け、メンバー各位に「RNN速報」として募金の呼びかけをさせていただくことになりました。

AMDAによる医療支援活動は、昨年10月からコックスバザール(Cox's Bazar)県ウクヒヤ(Ukhiya)地区にあるクトゥパロン(Kutupalong)難民キャンプの一角に診療所を開設して始められ、1日平均約130人の患者を診療、医薬品や毛布の提供等を行い、延べ9,759人の診療を行っています。12月には日本から第1次派遣として13日間、日本人医師1名を派遣、2月1日から第2次派遣チームとして3名の医療者の派遣を決定しました。

国連人道問題調整所(UNOCHA)の発表(1/29)によると、昨年8月から難民キャンプ内に流入したロヒンギャ難民は68万8千人にのぼり、皮膚疾患、性感染症の増加、ジフテリア、流行性耳下腺炎の拡大等が懸念されており、AMDAの診療所を訪れる患者数はさらに増える傾向にあります。

### ■AMDA本部からの派遣者

第1次派遣者：・米田 哲(よねだ とおる)/AMDA ERネットワーク登録医師/1978年12月生

第2次派遣医療チーム：

- ・押谷晴美(おしたに はるみ)/看護師/AMDA ERネットワーク登録/1980年生
- ・アリ・カダール/医師/国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)前保健局副局長/保健政策企画担当官/1953年5月生
- ・ヨセフ・ファスフス/医師/国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)ヘルスセンター長/1960年7生

この度も、下記の基準に則り、各位に募金をお願い申し上げる次第です。尚、本募金の〆切を医療支援活動開始から1年後の2018年10月末日といたします。宜しくお願いいたします。

RNN定例会議(1998/7/24 開催)により、本ネットワークによる緊急救援活動実施について

- ① RNN のメンバーが被災した場合
- ② 「トピアの会」のネットワーク INNED、姉妹校等)が被災した場合
- ③ AMDA が現地入りした場合

が即対応の基準として承認されています。

募金は下記の RNN 郵便振替口座に送金をお願いします。集められた募金はAMDAへの委託とともにRNN として責任をもって活用させていただきます。これまで同様、募金の領収書は各委員(教団・教会・寺院)名で出されます。ご協力に際しては、通信欄に「ロヒンギャ難民」とご明記下さい。

以上

### RNN郵便振替口座

加入者名：RNN

口座番号：01310-9-63933